屋根用高日射反射率（遮熱）塗料用下塗材　アレスクールシーラー

系　統　弱溶剤2液変性エポキシ樹脂
屋根用高日射反射率（遮熱）下塗塗料

適用規格　—

ホルムアルデヒド放散等級　—

特　長

1) アレスクールシリーズの専用プライマーで、上塗りを透過した赤外線を効率よく反射します。
2) アレスクールの赤外線反射システム「Wブロック効果」を有していま
3) す。
4) 弱溶剤タイプでなので、臭気がマイルドで作業環境に優しいです。
旧塗膜適性の幅が広いです。

塗装条件

塗装方法	窯業系素材 はけ ローラー	窯業系素材 エアレス スプレー			
希 釈 率	0～5%	0～5%			
標準所要量（kg/㎡/回）	0.20～0.35	0.20～0.35			
希 釈 剤	塗料用シンナーA				

注）標準所要量は、個々の条件によって異なります。
標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

塗装間隔

項目＼温度		23℃	5℃
標準塗装間隔	最 短	8時間	24時間
	最 長	7日	7日
使 用 時 限		7時間	12時間

塗料性状

	項　目	内　容
1	荷　姿	16kgセット ベース：15.2kg 硬化剤：0.8kg
2	混 合 比	ベース／硬化剤＝19 ／ 1
3	色	白
4	つ　や	—
5	仕上がり感	平滑
6	塗料比重	1.31
7	溶剤比重	0.81
8	加熱残分	68%
9	劇物表示（品名・含有量）	—
10	労安法上の表示有害物	ベース：　キシレン 硬化剤：　—
11	有機則/特化則	ベース：第3種有機溶剤等 硬化剤：第3種有機溶剤等
12	消防法による危険物区分	ベース：指定可燃物　可燃性液体類 硬化剤：第4類　第2石油類（非水溶性）
13	硬化剤の成分による区分	ケチミン

注）上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

主な適用素材

窯業系屋根材（新生瓦、波形スレートなど）

主な適用下塗塗料

ヤネ強化プライマーEPO
※表層劣化が著しい場合、下塗りにヤネ強化プライマーEPOを使用し脆弱層を強化後、アレスクールシーラーを塗装して下さい。

主な適用中塗塗料

主な適用上塗塗料

アレスクール1液Si、アレスクール2液Si、2液U
アレスクール水性F、アレスクール水性Si

使用上の注意事項

1) 表層劣化が著しい場合、下塗りにヤネ強化プライマーEPOを使用し脆弱層を強化後、アレスクールシーラーを塗装して下さい。
2) 標準所要量は一般的な条件での塗装作業に必要な塗料の参考値です。従って被塗物の形状や塗装条件などによって増減します。
3) 沈降している場合がありますので、使用前に十分撹拌してください。
4) 所定の混合比で十分撹拌して使用下さい。また混合した塗料は、可使時間内に使用して下さい。
5) 下地調整が不十分な場合には、塗膜の膨れ・割れ・剥がれの原因となったり、光沢が出ないもしくは艶むらが発生するなど仕上がり不良が生じる恐れがあります。ホコリ・油・錆液などは塗装前に溶剤拭き・水洗い（温水）等で十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。
6) 強風時や降雨の予想される日の塗装、および気温が5℃以下、湿度85%以上となる日の塗装は避けてください。
7) 他の塗料との混合は絶対に避けてください。
8) 希釈は必ず専用シンナーAを使用してください。
9) 品質が保持する塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と膜厚確保による施工を行なってください。特に上塗り1回塗りでは十分に発色、隠ぺいしない場合や、遮熱・塗膜性能が発揮されない場合がありますので必ず2回塗、標準塗装仕様（アレスクールシリーズ）をご使用ください。
10) 塗膜が乾燥過程で水（降雨など）の作用を受けると、上塗りとの付着阻害が発生する事があります。この場合は、軽くサンドペーパーなどで表面を研磨して表層白化物を除去してください。
11) その他、塗料の取扱いについての一般的な注意事項の詳細についてはSDS（安全データシート）を参照して下さい。

※本製品説明書の内容には、予告なくして変更することがありますのであらかじめご了承ください。